

紋別市中心市街地商店街 (一般社団法人紋別市商店街連合会)

北海道紋別市本町

WAONが紋別市全体で提携 商店街のキャッシュレス化が実現



取組の背景

磁気カードからの更新を 地域大型店と連携し実現

市内には、旧駅前を中心とした商店街と、大型チェーン店を中心とした郊外ロードサイド街の2つの商業集積地があるが、市民を対象としたアンケート調査結果では、最寄品の購入先は、市内大型店と回答した方が78%、中心市街地と回答した方が8%となっており、郊外ロードサイド街の大型チェーン店に人が流れ、中心市街地の商店街における店舗数、売場面積、年間販売額は減少し、空き店舗が増加、商業機能が衰退している傾向にあった。そこで、同商店街は、増加していた紋別市への観光客を商店街に取り込み、消費喚起につなげることを目的に、港祭りや流氷祭りといった市の一大イベントへの参加や、昔ながらのレトロな雰囲気の商店街を活用したスタンプラリーやハロウィンイベントの開催のほか、商店街ポイントカード「たまるんカード(磁気カード)」の活用イベントとしての「たまるんカード」のセールなど、商店街活性化のためにさまざまな取

組を行ってきた。市内では、郊外ロードサイド街の大型店に人が流れてしまっており、中心市街地の商店街が衰退するなか、商店街ポイントカード「たまるんカード」をICカード化するツールとして、紋別市が道内1位の利用率であるイオン株式会社の電子マネー、WAONカードに搭載された機能を使用。キャッシュレス決済による利便性の向上とともに、郊外の大型店と商店街が共存できる仕組みを構築した。



「紋太」も「WAON」もこれ一枚で!

取組の内容

手続き不要でIC化! ポイントの相互利用が実現

現状を踏まえ、市内で増加する観光客を取り込み、消費喚起につなげる必要があると判断。そのための取組として、市内でのニーズ調査のうえで、1999年から取り組んでいる商店街ポイントカード「たまるんカード」を磁気カードからICカードにした。

IC化に先立ちニーズ調査を行うため、共通ポイントカードシステム等導入に向けた調査分析事業を実施、市民と事業主それぞれに対してアンケート調査を行った。「IC型ポイントカードシステムを導入した場合使用するか」との問いに対して、市民からは、39%が「使用する」、15%が「使用しない」と回答があり、使用を希望する市民が多く、カードのIC化は真に地域に求められていたと考える。

IC化にあたっては、1ポイント1円から使用できるため、

域内での循環が促進された。ICカードとして普及させるために、新たにカードを発行するのではなく、国内でもトップクラスの高い普及率であり、紋別市が北海道内1位の利用率であり、ガリンコ号が北海道遺産に認定されていることから、電子マネー、北海道遺産WAONカードに「たまるんカード」の機能を追加させることで、既にWAONカードを所有している消費者は、手続き不要で商店街ポイントを付与できる。国内観光客にとっては、所有してい



上記ポイント移行大抽選会の様子

るWAONカードで決済ができ、商店街ポイントも貯まり、市外で貯めたWAONポイントも紋別市の商店街で使用できることから、郊外の大型店と商店街との共存に寄与

し、商店街における新たな消費が喚起された。また、キャッシュレス対応のため、インバウンドの買い物支援にも繋がった。

取組の成果

コロナ禍の厳しい情勢のなか
商店街の消費喚起に貢献

年度末に加盟店舗から売上報告を受け、加盟店舗ごとにポイントの発行状況を確認し、売上状況とポイントカードの使用状況を把握している。また、紋別市及び紋別商工会議所ならびに外部専門家と連携して、売上の

動向をもとに事業効果の検証を予定している。

事業実施前と比較すると、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、商店街の売上高、来街者数は減少しているが、消費者のポイント使用数はほぼ横ばいのため、ポイント使用率は上昇し、本事業での取組が商店街の消費喚起に繋がったと考える。

実施体制

これまで代表理事である斉藤順一氏のもと、中元・歳末「たまるんカード」まつり、紋別観光盆踊り大会の開催や、流氷祭りと港祭りの共催後援など、事業を推進してきた。

紋別市は、イオン北海道株式会社と包括連携協定

を締結したうえで本事業を推進しているほか、市役所職員が、まちづくり会社である株式会社紋別ニューシティ開発公社に出向しており、商店街の事業推進や今後の方向性について、紋別市、まちづくり会社、紋別商工会議所、商店街で、密に連携して情報共有が行われる体制を構築している。自主財源については、駐車場収益とポイント事業におけるポイント収益が現在の主な収入源である。

キーパーソンからのコメント

継続は力なり!自らも楽しみ、お客様も笑顔。

商店街でのイベントや事業を行ううえで、いつも考えることがあります。イヤイヤやる事業は長続きしない、しかし自分達が楽しかった(よかった)と思える事業は、必ずお客様も喜んでくれる。そう信じて事業を継続していきます。毎年事業を行うことで少しずつでも賑わいを取り戻したい。そして「誰かと話をしたくなったら商店街へ!」「元気を出したいときは商店街へ!」地域の

コミュニティとしての役割を果たすことが、今の商店街の使命と考えております。コロナ禍、会員皆「マスクの下は笑顔です。」をキャッチコピーに、お客様をお迎えしております。



一般社団法人 紋別市商店街連合会
代表理事 斉藤順一

商店街の概要

紋別市商店街連合会は、前身組織の紋別市商店街振興組合連合会の解散後、2011年4月より任意団体として再スタートし、2019年5月に法人化した。旧駅前を中心とした商店街は、商業、行政、居住等の都市機能が集積し、長い歴史のなかで文化、伝統を育み、各種機能を培ってきた「まちの顔」である。商店街への来街者の多くは紋別市民であるが、観光施設の「流水砕氷船ガリンコ号II」や、紋別駅の跡地にオープンした複合型商業店舗施設「オホーツク氷紋の駅」のほか、7月の港祭り、2月の流氷祭りを目当てに、近年は道内、道外および国外からの観光客が増加している。

所在地 北海道紋別市本町
人口 2万人(北海道紋別市)
電話 0158-23-2338
FAX 0158-23-2338

URL なし
会員数 11名
店舗数 47店舗

商店街の類型 複合型
主な客層 高齢者、主婦
／70歳代、60歳代